

活動テーマ

皆野町における森林共生と利活用を目的とした地域コミュニティの醸成と  
地域間交流を持続的に可能にするプラットフォームの構築

皆野町全域地区 ものづくり大学

## 1 活動目的

皆野町は埼玉県でも広大な森林を持ち、林業や水源保全の見地からも地理的に重要な位置にあるが、住民の林業および森林保全に関する意識は必ずしも高いとは言い難く、森林資源の利活用は焦層な課題となっている。

そこで本活動では、住民が森林や林業に関わるきっかけを創出することを通じて森林への理解と関心の向上を図り、将来的な担い手の育成および地域主体の森林管理に繋げることを目標としている。

## 2 活動地域の現状

皆野町は埼玉県の西北部に位置し、町域の約7割を森林が占めている。これらの森林は荒川水源の保全や災害防止など多様な機能を担っている。いっぽうで、少子高齢化の進行や林業従事者の減少により森林管理の担い手が進行しており、獣害の拡大や手入れの遅れた森林の増加など、森林の保全および利活用に関する課題が顕在化している。

## 3 活動内容

### 3-1 森林に関する学習・体験機会の実施

木工ワークショップや植樹体験イベント、森林環境・農地の機能保全に関わる清掃活動等の学習・体験機会を提供し、森林の役割や保全の重要性に対する理解促進と関心の向上を図った。また、これらの活動を通じて住民が森林に関わるきっかけづくりを行った。



図-1 木工ワークショップ風景①



図-2 植樹イベント参加者集合写真



図-3 木ワークショップ②



図-4 清掃活動風景

### 3-2 森林に関する理解促進および活動成果の共有

住民向けの活動報告の場を設け、取り組み内容や活動を通じて得られた知見を共有するとともに、森林に関する理解の促進を行った。



図-5 報告会発表風景

## 4 成果

森林活動への参加意向の変化を図-6に示す。

参加前に「参加したい」と回答した割合は約3割であったのに対し、参加後は4割へと上昇しており、体験機会の提供が森林活動への参加意欲の向上に寄与したことが確認された。

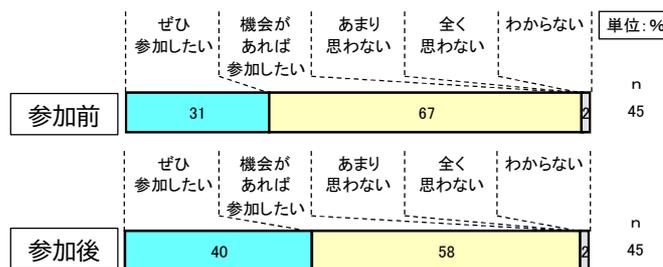


図-6 森林活動への参加意向

森林に関する意識の変化を図-7に示す。「大きく変わった」と回答した割合は44%となり、体験を通じて森林への理解や関心が深まった参加者が一定数存在することが示された。

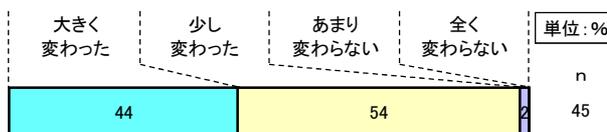


図-7 森林に関する意識の変化

表－1 各イベントを通じた森林に対する意識の変化

イベント	植樹イベント	地域イベント
基礎属性 (N値・年齢・性別)	N=45 男性:78% 女性:22% 60歳未満:75% 60歳以上:25%	N=85 男性:54% 女性:46% 60歳未満:85% 60歳以上:15%
イベント参加理由 ※複数選択可	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自然や森林に関心があるから 23人</li> <li>・環境保全に貢献したいと思ったから 18人</li> <li>・植樹などの活動に興味があったから 18人</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・友人・知人に誘われたから 37人</li> <li>・子どもと遊べるから 17人</li> <li>・祭・イベントが好きだから 16人</li> </ul>
イベント参加後の意識意向 ※自由記述	<ul style="list-style-type: none"> <li>・植樹・育林の大変さの認知 22人</li> <li>・林業や木材利用の価値理解 15人</li> <li>・森林と人との関わりの重要性 7人</li> <li>・森林の大切さ 5人</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・森林保全への取り組みと広報強化 9人</li> <li>・森林や自然を守り、人と共生することの大切さ 7人</li> <li>・森林等の教育・体験の機会を持つことの必要性 1人</li> </ul>

自由記述の内容を整理した結果を表－1に示す。「森林の役割が分かった」「身近に感じるようになった」など、森林への理解や関心の高まりに関する記述が多く確認された。これらの結果から、森林に関する学習・体験機会の提供は、住民の森林に対する意識向上および参加意向の醸成に一定の効果を有することが示唆された。

## 5 課題

次年度以降に向けた主な課題は以下の2点である。

- ① 地域住民との交流の拡大：初年度である本年度は、パイロット的に特定の地区を対象として活動を実施した。そのため今後は活動対象地区を拡大し、より多くの住民との関わりを創出していく必要がある。
- ② 地域団体・企業等との連携の深化：本年度は協力を得ながら活動を実施することができたが、今後は連携をさらに深め、協働体制を整備していく必要がある。これにより、森林に関する取り組みを持続的に進めていくことが可能になると考えられる。

## 6 次年度以降の計画

本年度の取組を踏まえ、活動内容を大きく拡大するのではなく、これまで実施してきた取組を継続・深化させることを基本方針とする。

具体的には、森林や木材に触れる学習・体験活動を引き続き実施するとともに、対象地区や参加者の幅を段階的に拡大する。また、地域住民や地域団体、企業との連携を一層深め、協働体制の構築を進めることで、持続的な森林との関わりにつなげる。

これらの取組を通じて、住民主体で森林と関わる基盤づくりを推進する。